

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》黒崎芳子

【概 要】

言語聴覚障害学の入門として、言語聴覚障害学、音声言語病理学・聴能学の学問背景と基本的事項を学ぶ。2年次の言語聴覚学総論や診断学、3年次の専門各論・演習への導入となっている。

【学習目標】

<一般目標>

リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備えるために、言語聴覚障害学、言語聴覚療法に関する基礎的知識を理解する。

<行動目標>

1. 言語聴覚障害学および音声言語病理学・聴能学の基本的事項と歴史について説明できる。
2. 言語聴覚障害の定義、原因、徴候、評価・鑑別診断、代表的治療法を理解し、説明できる。
3. 言語聴覚士の役割および言語聴覚療法の基本概念、臨床を理解し、説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	ガイダンス	全体の進め方と日程の確認 コミュニケーションとは 動物のコミュニケーション手段	黒崎芳子
2	言語とコミュニケーション	人間の言語の特徴 言語とコミュニケーション	黒崎芳子
3	言語とコミュニケーション	言語聴覚障害の種類 「ことばの鎖」 (言語学的段階、運動生理学的段階、音響学的段階)	黒崎芳子
4	言語音と産出機構	言語音の種類と発声発語器官	黒崎芳子
5	言語音と産出機構	話しことばの障害 (運動障害性構音障害、器質性構音障害、機能的構音障害、音声障害、吃音)	黒崎芳子
6	言語機能の障害	失語症（基本概念、原因と発生メカニズム、症状と失語症候群）	黒崎芳子
7	言語機能の障害	言語発達障害（基本概念、原因と発生メカニズム、症状） [キーワード] SLI、広汎性発達障害	黒崎芳子
8	前半のまとめ	言語とコミュニケーション、言語障害の種類、言語音と産生機構、話しことばの障害、言語機能の障害	黒崎芳子
9	言語聴覚障害の臨床とICF	ICF（概念的枠組み） [キーワード] 心身機能・身体構造、活動、参加	黒崎芳子
10	言語聴覚障害の臨床とICF	ICF（臨床への適用1） [キーワード] 環境因子、個人因子	黒崎芳子
11	言語聴覚障害の臨床とICF	ICF（臨床への適用2） [キーワード] 言語聴覚療法とICF	黒崎芳子
12	言語聴覚士の職務	言語聴覚士の業務と役割	黒崎芳子
13	言語聴覚士の職務	臨床業務の進め方	黒崎芳子
14	言語聴覚士の職務	倫理・リスクマネジメント	黒崎芳子
15	後半まとめ	言語聴覚士の職務について学んだことをまとめる。	黒崎芳子

【評価方法】

レポート20% 定期試験80%

フィードバックとして、レポート、試験の結果から、習得が不十分な点などについて、講義中に解説する。

【備 考】

教科書：藤田郁代 他 編 「標準言語聴覚障害学シリーズ・言語聴覚障害学概論」（第2版） 医学書院 2019年

【学習の準備】

予習では、講義内容を確認し、教科書を読み、専門用語を調べ理解しておくこと（80分）。

復習では、教科書と講義で配布された資料を整理し、講義内容の理解を確実にすること（80分）。

ワークショップでは班で発表するテーマについて調べること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

黒崎芳子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、言語聴覚士の関わる領域に関しての基本的知識および言語聴覚士の職務について講義する。